

令和7年度ぶんじボッチャカップ 2025 大会ルール

試合形式

予選リーグ

- 1 予選（リーグ戦）はA・B・C・Dの4グループで実施。
- 2 1試合2エンドの総得点。
じゃんけんで勝ったほうが左右どちらかのボックスを選択する。
※左のボックス（赤ボール）を選択⇒第1エンドジャックボール
※右のボックス（青ボール）を選択⇒第2エンドは同じボックスでジャックボール
※エンドが変わっても各チームはボックスを移動しない
- 3 総得点が同点の場合はタイブレイク（その他参照）。
- 4 予選リーグの勝敗決定順は勝数>得失点差>総得点で決する。
※上記の決定順で勝敗が決まらない場合はタイブレイクを実施する。
- 5 各グループ1位チームが決勝トーナメントへ出場。

決勝トーナメント

- 1 トーナメント制
- 2 1試合3エンドの総得点
（勝数・得失点差は勝敗に含めず、総得点のみで決する。）
・じゃんけんで勝ったほうが左右どちらかのボックスを選択する。
※左のボックス（赤ボール）を選択⇒第1エンドジャックボール
※右のボックス（青ボール）を選択⇒第2エンドは同じボックスでジャックボール
※第3エンド目はクロス中心にジャックボールを置き、「じゃんけん」で先攻・後攻を決める
- 3 総得点が同点の場合はタイブレイク（その他参照）。

その他

1 1エンド6投

(1チーム3～6人で構成。エンド毎のメンバー入れ替え可。)

1エンドにつき、必ずチーム全員が一投すること。

2 タイブレイクの実施方法

- ・ じゃんけんをして勝ったほうが先攻後攻を決める。その後、選出された一名により、1球のみ投球。ジャックボールに最も近いボールを投げたチームが勝者となる。
- ・ ジャックボールをターゲットボックスのクロスの上に置く。
- ・ 投球ボックスは試合のままのボックスから移動しない。
- ・ 両者が完全に等距離になった場合、2回目のタイブレイクを行う。その際は先攻・後攻は入れ替えるものとする。投球者は、1回目のタイブレイクと同じ者でも問題ない。得点は数えず勝者のみを決定。
- ・ 2回目のタイブレイクを行う場合は、1回目のタイブレイクで使用したボールは取り除き、新たにジャックボールをターゲットボックスのクロスの上に置く。

3 コートはバドミントンコート約半分

4 付き添いも含め、チーム内での会話は可能。

他チームの迷惑にならないように静かに相談をする。この時審判は、迷惑になっていると判断したら「静かにするように」と口頭で注意をする。審判が注意しても改善されなければ、相手チームが投球時の相談を禁止とする。また、審判に点数を聞いたり、ボールの配置を確かめるために、コート内に入ることができるのは、パドルが出ているチームの一人のみとする。パドルが出ていないチームは自分たちの番になるまでその権利はない。

5 マイボール・ランプの持ち込み可能。

本大会においては、ランプオペレーターとプレイヤーの兼務を可とする。ランプオペレーターとプレイヤーを兼務する場合、オペレーター時はコートに背を向けて、ランプ使用者の指示によりランプを操作することを徹底すること。

6 1人用のスローインボックスはない。

7 エンドが変わっても各チームはボックスを移動しない。

8 審判による事前の口頭注意の徹底で、反則行為を極力回避

審判は反則行為を未然に防ぐため事前の口頭注意を徹底する。

また、本大会は交流を目的とした大会であることから、申し合わせ事項として、原則、反則行為に対してペナルティボールは科さない。ただし、反則状態で投球されたボールについては、ボールをコートから除去（リトラクション）する。なお、悪質な反則を故意に繰り返すことや、判定への異議を主張したりするなど、進行や他チームへの妨げになる恐れがある場合には、悪質な反則を故意に繰り返したチームのキャプテンにチームの手持ちボールから一つ選択していただき、罰則（アウトボールとする）を科す場合がある。

【主な反則行為】反則時は、リトラクション（ボール除去）とする。

- ・投球時にラインを踏んだり、超えたりする行為
- ・審判から指示がある前に投球する、または指示のないチームが投球する行為。
- ・ランプを使用する選手のアシスタントが試合中にプレイングエリアを見たり、選手に指示したりするなどの動きを審判が認めた場合。

9 エンドのはじめに、ジャックボールが無効エリアで止まったり、コート外に出てしまった場合は、相手側にジャックボールの投球権利が移動する。

※上記の場合においても、次のエンドでの先攻は変更されない。

【その他の事例への対応】

①ジャックボールがコートの外に出た場合

ジャックボールはクロスの上に置く。ジャックボールに最も近いボールのチームと反対のチームの投球から再開とする。

②コートから全てのボールがなくなった場合

ジャックボールをクロスの上に置き、その状況を作り出したチームの投球から再開とする。

③ジャックボールのみコートに残った場合

その状況を作り出したチームの投球で再開する。その際、投球者を変更しても構わない。

④カラーボールがジャックボールと完全に等距離になった場合

点数が同点の場合は、その状況を作り出したチームの投球から再開とする。点数が同点ではない場合は、点数の少ないチームの投球から再開とする。